

令和2年度国有林野の管理経営に関する 基本計画の実施状況について

国有林野事業では、国有林野の管理経営に関する基本的な事項を明らかにするため、あらかじめ国民の皆さんの意見を聴いた上で「国有林野の管理経営に関する基本計画」を策定しています。

この計画に基づき国有林野の管理経営を行い、毎年、その前年度における実施状況を公表しています。

この度、平成31年4月から令和11年3月までを計画期間とする管理経営基本計画に基づく令和2年度の実施状況を公表しましたので、その内容を紹介します。

公益重視の管理経営の一層の推進

重視すべき機能に応じた管理経営の推進

日本の国土の約2割、森林面積の約3割を占める国有林野は、その多くが奥地脊梁山地や水源地域に分布し、人

工林や原生的な天然林等の多様な生態系を有しており、国土保全や水源涵養等の公益的機能の発揮に大きな役割を果たしています(図1)。

国有林野事業では、公益重視の管理経営の一層の推進を図るため、5つの機能類型区分に基づき、流域の自然的特性等を踏まえつつ、森林施業等を実施しています。

治山事業の実施

安全で安心できる暮らしを確保するため、治山事業による荒廃地の整備や災害復旧、保安林の整備等を計画的に進めています。大規模災害が発生した際には民有林への支援も含めた迅速な災害対応に取り組んでいます。

路網の整備

森林の適切な整備・保全、林産物の供給等を効率的に行うため、林道や森林作業道を適切に組み合わせた路網整備を進めつつ、現地で発生する資材を

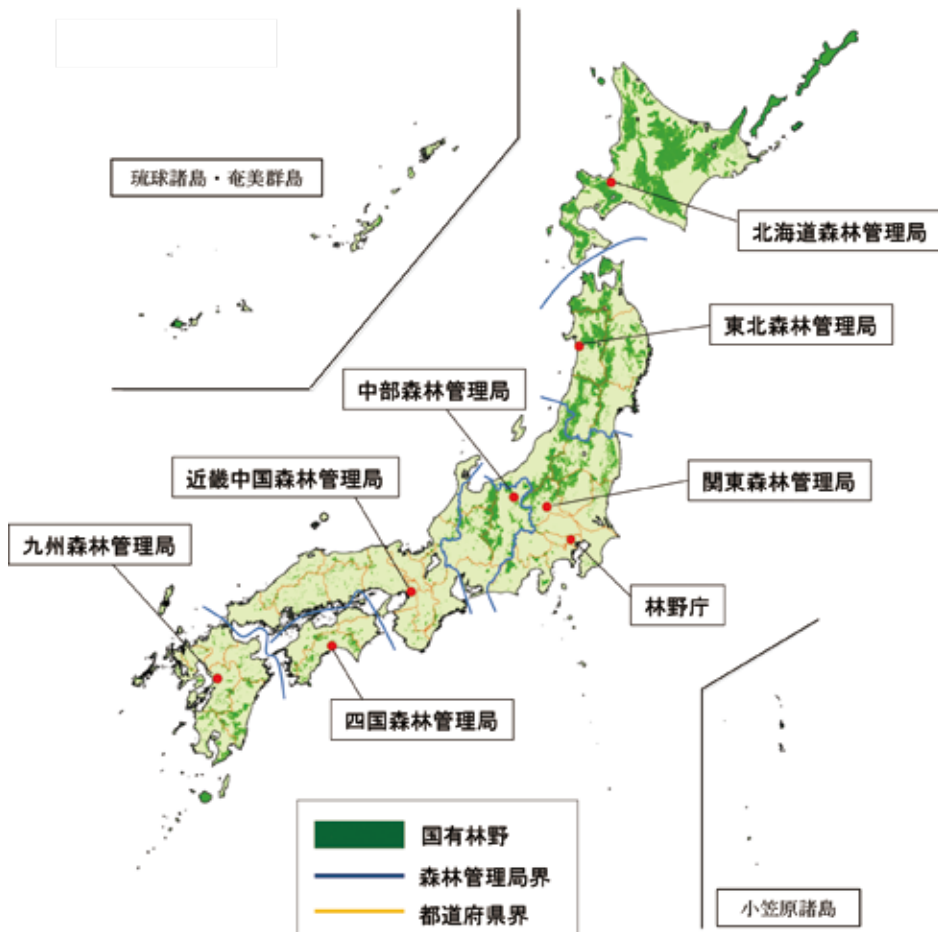


図1 国有林野の分布

活用したコスト縮減等に努めています。さらに、豪雨災害が多発する中で災害の危険性が高い地区において、被災の危険性を低減させるための改良を実施しています（写真1）。

地球温暖化対策の推進

間伐等の森林整備や積極的な木材利用、国民参加の森林づくりとともに、人工林資源の成熟に伴い主伐面積が増加する中で、将来にわたる二酸化炭素の森林吸収量を確保・強化するため、再造林に率先して取り組むこととしています。

生物多様性の保全

「保護林」や「緑の回廊」におけるモニタリング調査等を通じた保護・管

理を推進するとともに、多様な森林づくりの推進、森林の適切な保全・管理、施業現場における生物多様性への配慮等に取り組んでいます（写真2）。

森林・林業の再生に向けた貢献

我が国の森林・林業の再生に貢献するため、国有林の組織・技術力・資源を活用し、民有林経営への支援等に積極的に取り組みました（写真5）。伐採から造林までを一体的に行う「一貫作業システム」や生産性向上に効果的な手法の普及・定着を図る「生産性向上プログラム」等を推進しています。

また、国有林野には森林・林業分野に関する知識と林業を実践できる



写真1 法面保護工を行った氷ヶ瀬小俣林道



写真2 イヌワシの狩場創出を考慮した人工林の小規模な伐採

トピックス ①

令和2年7月豪雨への対応

あしきたまち

九州森林管理局では、令和2年7月豪雨により山地災害が集中した熊本県芦北町等1市2町において、熊本県知事からの要請を受け、民有林の治山施設や林地復旧を国の直轄代行により施工する特定民有林直轄治山施設災害復旧等事業を10月に開始しました（写真3）。

また、中部森林管理局及び九州森林管理局では、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が緊急観測したデータの提供を受け、土砂移動の可能性が高い区域を中心にヘリコプターによる上空からの調査を行うなど効率的に調査しました。調査状況については、モバイルアプリケーションの「山地災害調査アプリ」等を用いて、林野庁一森林管理局一森林管理署において、リアルタイムで共有するなど迅速な把握を行うとともに、これらの情報を地方公共団体に共有しました（写真4）。



写真3 熊本県芦北町の応急対策完成の様子



写真4 ヘリコプターから撮影した写真及び「山地災害調査アプリの画面」



写真5 現地検討会における無人航空機による苗木の運搬の様子

フィールドがあることから、国有林野事業の人的資源を活用した講師の派遣や、国有林野のフィールドを活用した技術実習を行っています（写真6、7）。

国民の森林としての管理経営



学校等と森林管理署等が協定を結び、様々な自然体験等を進める「遊々の森」の設定・活用など、森林環境教育に係るプログラムの整備やフィールドの提供等に取り組んでいます。

また、自ら森林づくりを行いたいという国民の要請も踏まえ、ボランティア団体等と森林管理署等が協定を結び、国有林野を森林づくりのフィールドと



写真6 造林作業の現地研修の様子



写真7 国有林野における獣害対策の現地実習の様子

して提供する「ふれあいの森」や「木の文化を支える森づくり」等を設定するとともに、技術指導や助言等の支援を行っています（写真8）。

トピックス②

新型コロナウイルス感染症の影響への対応（国有林材の供給調整対策）

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による社会・経済への影響により、年度当初に製材・合板工場の生産調整等が行われ、素材（丸太）需要が減少、木材価格も下落するなど影響が広がりました。これを受け、各森林管理局及び本庁で国有林材供給調整検討委員会を臨機に開催し、各地域の需要等を踏まえながら、立木販売の公告延期や素材（丸太）生産を伴わない事業への振替等に取り組みました。

その結果、令和2年度の国有林材供給量は、前年度比約1割減少しました（特に立木販売量は約3割減少）。素材（丸太）生産量についても、事業の振替等により、第3四半期以降、1～2割減少しました。こうした取組については、国有林材供給調整検討委員会において、民有林での取組と相まって、一定の効果があつたと評価されました。（図2、3）。

図2

月別立木販売量の推移

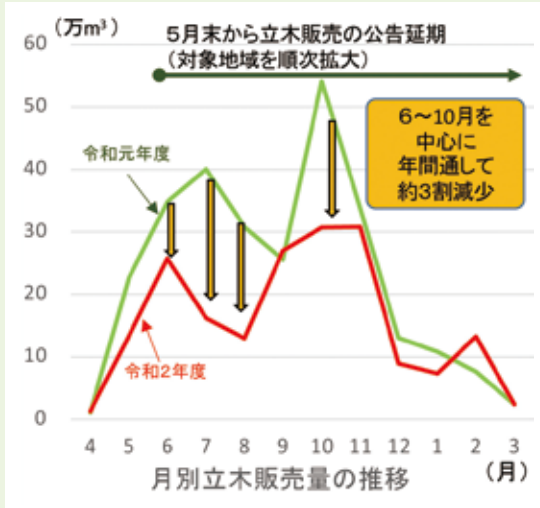
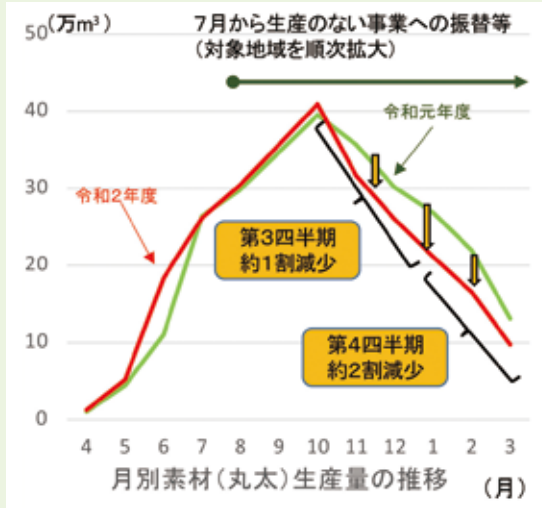


図3

月別素材（丸太）生産量の推移



国有林野の維持及び保存



松くい虫被害やナラ枯れ等の森林病虫害の拡大を防ぐため、地方公共団体や地域住民と連携しつつ、伐倒駆除等の被害対策を進めています。また、シカによる被害を防止するため、地域の関係行政機関等と連携して、効果的な捕獲技術の実用化や捕獲協力等も含め、総合的な被害対策を行っています（写真9）。

国有林野の林産物の供給



国有林野事業では、森林整備の結果



写真8 地元小中学生による祖谷のかずら橋の架け替え資材の苗木づくり

得られる木材の持続的・計画的な供給に努め、地域の林業・木材産業の活性化に貢献することとしています（写真10）。令和2年度の国有林材供給量は

389万m³（丸太換算）となっています。踏まえた供給調整を行いながら、約

国有林野の活用



優れた景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した国有林野を「レクリエーションの森」に設定し、そのうち、特に景観等の優れたものを「日本美しの森 お薦め国有林」として93か所選定して重点的な環境整備等に



写真9 近畿中国森林管理局職員が考案した改良型わな（シカ捕獲手法）の実演会の様子

取り組んでいます。

国有林野の事業運営



適切な森林整備を通じた収穫量の確保やコスト縮減等による計画的かつ効率的な事業実行に努め、令和2年度は211億円の債務返済を行い、累積返済額は1,141億円となっています。

その他国有林野の管理経営



平成23年3月に発生した東日本大震災からの復興に当たって、地域の期待に応えるため、10年にわたり様々な取組を行ってきました。



写真10 民有林と連携した森林認証材の協調出荷の様子

被災した海岸防災林について、クロマツ等の植栽を進め、NPOや企業等の民間団体の協力も得ながら植栽や保育作業を行ってきました（写真11）。

また、福島県相双地域の避難指示解除区域における林業再生に向け、森林整備、木材生産、林道の維持修繕・改良を平成30年度から本格的に再開して、今後も適切な森林整備に取り組みしていきます。



写真11 植栽後7年が経過した海岸防災林（宮城県岩沼市の下野郷字須賀原林国有林）